



2018 年 5 月 14 日

報道関係者各位

慶 應 義 塾

第 706 回三田演説会開催（6/14）
「ジャーナリズムと権力」
滝鼻 卓雄 君（読売新聞東京本社 社友）

三田演説会は慶應義塾で 1874（明治 7）年に始まり、2015 年 7 月に第 700 回を数えました。
6 月 14 日（木）に第 706 回三田演説会を開催し、「ジャーナリズムと権力」と題して滝鼻 卓雄 君
（読売新聞東京本社 社友）が講演します。
つきましては、本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をよろしくお願いいたします。

1. 開催概要

- (1) 日 時 : 2018 年 6 月 14 日（木） 14 時 45 分～16 時 15 分（開場 14 時 00 分）
- (2) 講演者 : 滝鼻 卓雄（たきはな たくお）
（読売新聞東京本社 社友、慶應義塾評議員）
- (3) 演 題 : 「ジャーナリズムと権力」
いまの時代ほど、新聞、テレビ、ウェブサイト・ニュースなどのジャーナリズム
と政治権力との関係が問われていることはありません。連日報道されている国家
文書のずさんな管理、米大統領とメディアとの衝突、中ソにおける報道規制。ど
れを取り上げても、ジャーナリズムと国家権力との対峙が浮上してきます。その
中でジャーナリストの仕事とは何かを語ります。
- (4) 会 場 : 慶應義塾大学（三田キャンパス）三田演説館
東京都港区三田 2-15-45
- (5) 交 通 : JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約 8 分）
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約 7 分）
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約 8 分）
<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>
- (6) 参 加 : 入場無料・申込不要（定員約 140 名）
※座席は先着順です。満席の場合は立見または入場を制限させていただく可能性
がございますので、ご了承ください。

2. 滝鼻 卓雄 君 プロフィール

〔略 歴〕

1939 年東京都生まれ。1963 年慶應義塾大学法学部政治学科卒業。同年読売新聞社に入社。論説委員、社会部長などを務める。

2004 年読売新聞東京本社社長・編集主幹に就任。会長、相談役を経て、2013 年に退社。その間に読売巨人軍オーナー、日本記者クラブ理事長に就いた。

〔著 書〕

『記者と権力』（早川書房、2017 年）

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など 10 余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として 1874（明治 7）年 6 月 27 日に発足し、翌年、日本最初の演説会堂である三田演説館が完成しました。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。三田演説館は 1967（昭和 42）年、国の重要文化財に指定されています。

福澤は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝るの法なり」（『学問のすゝめ』十二編）と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えたと言福澤本人が述べています。

旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

* 本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。

* ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 渡辺

TEL 03-5427-1541

FAX 03-5441-7640

Email m-pr@adst.keio.ac.jp

<https://www.keio.ac.jp/>